

スクラム組んで未来を共創



佐藤 ひさよし 後援会 News

発行：佐藤 ひさよし 後援会・大泉町民懇話会

後援会事務所：坂田1-1-1 (パナソニック構内) TEL：0276-61-9926

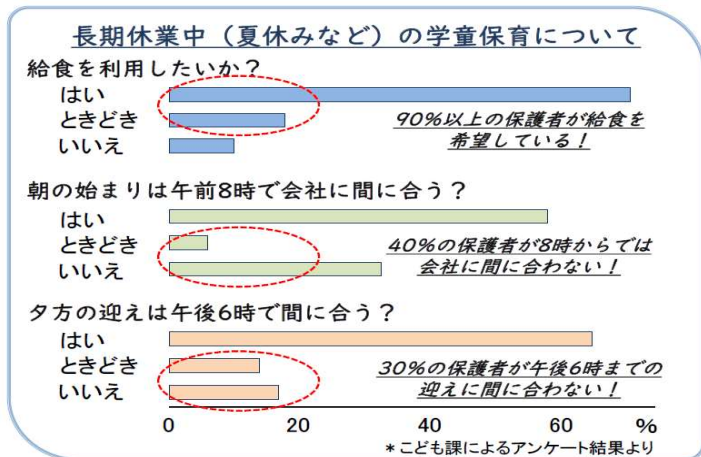
新たな4年間がスタートしました。2期目のテーマとして掲げた『教育から始める未来づくり』を推進し、私のスローガンである『あなたの声を町政にスクラム組んで未来を共創』の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

6月定例会では皆様から頂いた、意見要望をまとめ、一般質問で行政に届けました。皆様とさせていただいた約束は必ず守ります。

さて、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、65歳以上の方から接種が開始され、Lineによる接種予約で混乱を招きましたが、それ以降は順調にワクチン接種が進んでいます。町内でも職域接種を開始した企業もあり、現役世代のワクチン接種も進んでいる状況です。一日でも早く今までの日常が戻ってくることを期待します。そして、その時のために今できること、やらなくてはいけないことを整理し、行政に対して提言していきます。

新型コロナウイルスの影響は、まだ続くと思われまます。皆様が生活していく中でのお困りごとやご意見、ご要望がございましたらお気軽にご連絡をください。

6月定例会ではこんなことが決まりました



6月定例会 会期：令和3年6月8日～10日

人事関係・・・	3件	補正予算・・・	1件
条例関係・・・	1件	その他・・・	2件

合計 件

この中から1つを Pick up

長期休業中（夏休みなど）の選択式給食も 運営時間の延長も実現できました！

その結果、令和元年の夏休みからは学童保育の選択式給食が開始され、多くの働く保護者の負担が軽減されました。利用者の満足度も高くなっています。

そして、本年7月から学童保育の運営時間が延長されますので、会社の子社・退社時間に余裕ができることとなります。

今までは子どもを預ける時間や迎えの時間に間に合わず、働く時間を制限していた方も多く見られましたが、運営時間が延長されたことにより、働く時間を制限しない働き方が出来るようになり、収入増や心にゆとりを持った生活に繋がりました。

子育て支援の更なる充実に向けて取組みを加速していきます。

学童保育の運営時間の延長については、働く保護者の負担軽減など子育て支援の充実を平成29年12月の一般質問にて提言しました。

この条例は児童館で実施している『学童保育』の運営時間の延長をするために、条例で定められている学童棟の開館時間について変更する条例です。

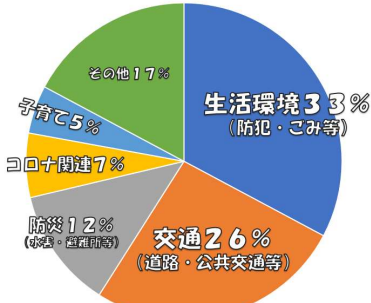
内容としては、小学校の授業がある日については、児童の下校時から午後6時30分として、現在よりも30分の延長となり、授業がない日(夏休みなど)は午前7時30分から午後6時30分として、現在より、朝は1時間、夕方は30分の延長となります。

「大泉町児童館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について」

議案第29号

Pick up①

厳しい財政状況が続くことが予測されるが
持続可能な町の構築に向けて様々な提言をしていきます！



皆様からいただいた声は必ず届けます！



ふれあい橋の修繕が必要では!?



ごみステーション管理に行政の支援を！

『良い街』とは生活の中にある身近な課題をいかに解決できるかがポイント

新型コロナウイルスの影響などもあり、ここ数年の間は厳しい財政状況での町政運営となることが予測されますが、私たちが生活していく中の身近なところにも多くの課題があります。3月から4月にかけて多くの方と意見交換をさせていただき、皆様から頂いた声を行政に届けました。その中の一つとして仙石地区にある『いずみ であい ふれあい橋』の修繕を訴えました。ここは十数年前からマットの凹凸が課題となっていました。マットを裏返しにするなどして対応してききました。しかし、それも限界にき

私たちが排出している燃えるごみの約45%は『生ごみ』

『生ごみ』の約80~90%は水分

経費で見ると・・・
4億3484万円 (令和元年度負担金) → この内 2億4489万円 (燃えるごみ処理費) → この内 約76% 1億8709万円 (一般家庭分)

この内約45% ↓ 8,419万円/年 (生ごみ処理分)

私たちは大きな経費を使って水を燃やしCO2を排出している

環境影響と経費面を考えれば早急に改善に向けた取組みが必要！

生ごみの処理には大きな経費が掛かっている！

生ごみ処理を工夫するだけで行政サービスの充実につながります

私たちが排出している『燃えるごみ』の約45%は『生ごみ』で、

もう一点は『ごみステーション管理に行政からの支援』を訴えました。各自自治会に交付している交付金で対応いただきたいとの答弁でした。皆様からいただいた意見要望は必ず行政に届け、課題の解決に向けて取組んでまいります。

ているので、修繕を訴えましたが、ある程度、財政が回復するまでは、こまめに応急的な補修で対応していくとの答弁でした。

右図は地域社会の課題を解決していくと、町・大学・企業が連携し、生ごみの処理に伴う処理費用削減、二酸化炭素削減に向けた食農循環システムの構築案です。本町でも同様に食農循環

環境負荷の低減と経費削減のため食農循環システム構築に取り組ましよう

生ごみの約80%から90%は水分となっています。町内の一般家庭から排出される燃えるごみの処理費用は年間約1億9千万円、そのうち約8千4百万円が『生ごみ』処理に充てられています。私たちは大きな経費(税金)を使って水を燃やし、二酸化炭素も排出していることとなります。環境影響と経費面を考えれば早急に改善に向けた取組みを始めるなければなりません。



食農循環システムの構築に取り組ましよう！

一般質問の様子が動画で閲覧できます！



大泉町議会インターネット中継

検索

システムの構築を進め環境負荷の低減と経費削減の取組みを推進する必要があります。その中の一つとして安価で始められるダンボールコンポストなどの普及について提言しました。ごみ処理に関して、現状のまま何もしなければ近い将来に『ゴミ袋有料化』は避けられません。生ごみを3割削減できると年間2千5百万円の経費削減につながります。持続可能な町の構築のため、ごみ問題にさらに取組みます。



ダンボールコンポストで生ごみ削減！